

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部



令和五年十月度 入賞句一覧

投句数 六百九十三句

特選

長町 誠司 選

すいとうの大きさかわりあきがきた

大垣市

須貝 梅子(小四)

ありのままの事実を述べている作者。
しかし、この句から季節の移り変わりや、親の愛情を読み取ることができません。
「夏」には氷の入っていた大きな水筒も、水分補給の頻度が減り、残して持ち帰るように
なつたのですね。そんな子に少し小さめの水筒を用意したお母さん。秋の訪れを、水筒の大き
さによつて表現した作句力はさすがです。

台風はおよいでいるぞ空の上

大垣市

石原 るい(小五)

「泳ぎ」は夏の季語、「台風」は秋の季語です。季重なりを主張する人がいますが、ナンセ
ンスな指摘だと考えます。この句の主役は「台風」であり、それを「およいでいる」と捉えた
作者の感受性を褒めるべきでしょう。テレビやラジオで、「台風は速度を落として、ゆつ々
りと・・・」などと報道されることがありますが、この時の台風は「クロール」から「平泳
ぎ」に泳法を切り替えたからかもしれないですね。断定した擬人法がよく効いています。

葉は落ちる空はまだまだ向上心

大垣市

中村 理人(小六)

一読「ん？」と感じた句。応募句の中でも、類句の見当たらない俳句でした。落葉樹が葉を
落とすのは生存戦略のためです。土を直射日光による乾燥から守り、やがて分解され腐葉土と
なり、再び葉をつけるための栄養となつているからです。厳しい冬を迎える「空」が能動的に
葉を落としていているように感じ取つたのかもしれないですね。とても向上心のある作者。

秀逸

うんどう会やさいははこぶがんばるぞ

大垣市

松村 そうま(小二)

虫の声夜にどんどんふえてくる

大垣市

伊藤 里依香(小四)

あきのつきたんぼのみずにすきとおる

大垣市

今村 心奏(小四)

うんどう会パママ見つけて元気出た

大垣市

折戸 惺奏(小二)

どんぐりは人と同じでこせいあり

大垣市

小坂 南帆(小五)

コオロギがキリキリないてうんどう会

大垣市

井口 陽(小二)

すずむしがないたよあきがやつてくる

大垣市

ふじ田 じゅんのすけ(小二)

月を見てきようも一日がんばつた

大垣市

かたやま りおと(小二)

外に出てかすかにおう秋の風

大垣市

宮内 花絢(小六)

秋空はどこまでも青とどかない

大垣市

陸田 峻生(小二)

入選

秋空におえかきをするひこうき雲	大垣市	中村 心れい(小三)
ひまわりがおじぎをしているありがとう	大垣市	早野 結菜(小四)
どんぐりが一つ二つと落ちてくる	大垣市	ひろはた はるき(小四)
コスモスの思い出話し空を見る	大垣市	大和田 悠真(小五)
あきのひるなんだかみようにはらがすく	大垣市	中切 淳仁(小二)
くいせがわまつかにそめるひがん花	大垣市	折戸 惺奏(小二)
ぼくの手とくらべてみようオオモミジ	大垣市	佐藤 祐(小二)
ひがん花赤いじゆうたんかぶとづか	大垣市	林 芽生(小二)
おばあちゃんおぼけやさいをそだててる	大垣市	山田 桔平(小二)
カブトムシ部屋をきれいにすみやすく	大垣市	楠 舞花(小五)
きたな冬ずっと半そでやりきるぞ	大垣市	三日月 悠真(小五)
どんぐりが雨ふるように落ちてくる	大垣市	伊東 希実(小五)
えいえんに子どもでいたいハロウィンだ	大垣市	こしやう ひな(小二)
わたしたちといつしよにひかってるホタルたち	大垣市	なかむら ももか(小二)
こうしえんいつかはぼくもバットふる	大垣市	田なべ げんどう(小二)
虫の声だんだん声が変わってく	大垣市	梅田 悠介(小六)
くり拾い拾いだしたらやめられん	大垣市	後藤 楓(小六)
妹が蜻蛉の詩をおぼえたよ	大垣市	三輪 百亜来(小六)
秋の色赤や黄色が落ちてくる	大垣市	栗田 こはる(小六)
鈴虫の鳴き声で目が覚める朝	大垣市	岩崎 瑠奈(小六)

小中学生の部

選者吟

愛の羽根なかの透ける募金箱

せいじ

